



加藤なを子 活動レポート

県政へのかけ橋



日本共産党の見解を紹介します。

発行：日本共産党・加藤なを子事務所 <連絡先> 藤沢市藤沢2-3-2 TEL0466-25-4776 fax 25-4761

安心して子どもを産み、育て、働き、生活できる神奈川県をめざして 神奈川県の妊婦健診助成は全国最下位の47位です。

妊婦検診の公費負担額は、1位の石川県が137,813円、神奈川県は平均額71,417円です。妊婦健診には保険が適用されないため、国の交付金を使って、市町村が助成をしています。自治体によってばらつきがあります。健診を受けるには多額の費用がかかり、「自己負担をなくしてほしい。」という要望や、「費用負担が大きく、妊婦健診をひかえたことがある。」という声も聞きました。

妊婦健康診査は、妊娠中の女性の健康を守り、安心して妊娠・出産をするため、とても重要です。県として助成を拡充する必要があります。

県議会では、共産党県議団が県独自の補助を求めましたが、知事は妊婦健診の重要性を認めながらも「市町村に補助額の見直しを検討するように働きかける。」とし、県独自で支援しようとしません。



藤沢市の妊産婦健康診査費用補助券

妊婦健診の 公費負担の拡充を



(加藤なを子さんを支援する藤沢市民の会で)

<全国の妊婦健康診査公費負担の状況> (2021年度)

全国順位	都道府県名	都道府県内の全市町村平均の
1位	石川県	137,813円
2位	福島県	129,978円
3位	長野県	127,026円
47位	神奈川県	71,417円
	全国平均	105,734円

※公費負担額が明示されていない市町村は除く。

なを子の花だより

梅

←「藤牡丹」という枝垂れ梅です。八重咲きの濃いピンク色の花びらが愛らしいです。少し甘い香りがして早く春がきてと呼んでいます。

「白梅」の花言葉は「気品」「上品」。白い花びらが花言葉どおりですね。なんと梅はバラ科サクラ属なんです。ばらとサクラをかけ合わせたようだからなのでしょうか。



児童相談所の職員を増やし、 子どものいのちを守る体制づくりを



↑ (加藤なを子は左から2番目)

↑ (加藤なを子は右から2番目)

去年の11月に、藤沢市にある県立総合療育センターと、平塚市にある子ども自立生活支援センター（愛称：きらり）を、県議団と一緒に視察しました。総合療育相談センターは、療育の相談とともに、医療施設を併設しています。リハビリの他、入院や短期入所事業を行なっています。でも近年は、小児科医師や看護師の不足などにより短期入所事業が思うようにできず、一時的に休止を繰り返している状況です。

福祉の現場は、どこも人材不足に悩まされています。

神奈川県の児童相談所も同じです。児童相談所がかかわっていた事例として、2歳児が死亡し、母親が逮捕されるという痛ましい事件がおきました。母親は、母子手帳もなく妊娠後の妊婦検診も受けていない「特定妊婦」（児童福祉法に基づいた養育上の公的支援を妊娠中から要するような環境にある妊婦）でした。平塚で出産後、育てる準備ができていないとして児童相談所に通報があり、乳児院で2年預かっていたそうです。

私は県議の時、子どもがアパートの一室で餓死していた悲しくつらい事件で、児童相談所の課題について繰り返し、とりあげました。児童虐待が増える中、児童相談所の児童福祉司、児童心理司の職員は増員されました。

市や地域と連携して総合的なサポート体制をとり、子どものいのち、くらしを守ります。

神奈川県の 財政力は豊か

160億円
JR村岡新駅
(大船～藤沢4分)

村岡新駅より福祉へ

2330億円
県の財政調整基金
(貯金)

200億円
県予算1%組み替え